

横浜市立南希望が丘中学校

学校教育目標



～挑戦・発信・錬磨～

○主体的に考え、伝える力と課題を解決する力を高める。【知】

○人を思いやり、自分や周りを大切にする心を育てる。【徳】

○様々なふれあいを通し、豊かな心と体を鍛える。【体・開】

E S Dを通して育成したい資質・能力

○課題解決力・発信力・コミュニケーション力

(「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」)

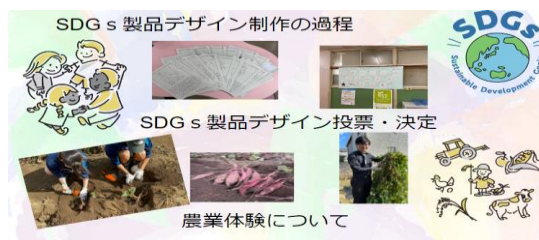
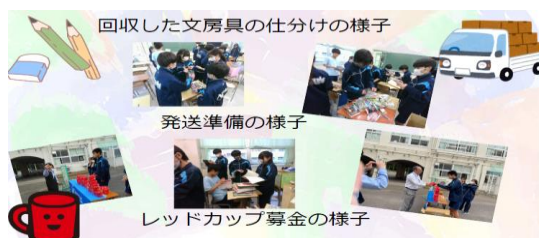
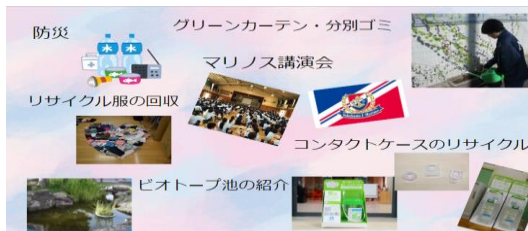
○自己肯定感・協働・挑戦する気持ち

(「学びに向かう力、人間性等」)



1 ESDを通して育成したい資質・能力の具体(例) は連携・協働のパートナー

1年間の取組内容



学校保健委員会で各委員会が発表しました

「防災」

まず、SDGsの目標である「①貧困をなくそう」「⑥安全な水とトイレを世界中に」「⑩住み続けられるまちづくりを」「⑱気候変動に具体的な対策を」と防災の関連について学び、「はまっこ防災プロジェクト」のアニメーションの視聴をしました。アニメーションでは実際に横浜で大地震が起きるという内容で生徒達は「いつか自分が大きな地震を体験するかもしれない」と実感することができました。そのうえで、「(1)地震の歴史と現在(2)地震のしくみ(3)家庭・学校・外出先に潜む危険と備え(4)地震の時の避難(防災マップ)(5)地震の時にとる行動(6)地震と被害」のテーマでそれぞれ自分が興味をもったことを調べ、まとめ、発表を行いました。1年生は新聞づくりを行い、3年生はクロムブックでGoogleスライドをつかってまとめをしました。

次にHUGゲームをしました。HUGゲームを通して災害時要援護者への配慮をしながら体育館割りを考え、吹き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保など、出来事に対して思いのまま意見を出し合ったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所の運営を学びました。



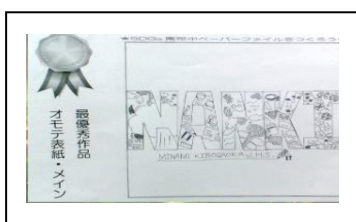
2 地域や企業、NPOなどとの連携・協働 により引き出すことができた価値

●ペーパーファイル製作

ステークホルダー交流会にて、kitafukuさんと出会いその後の交流の中で、共に何かできないかという事で、「クラフトビールペーパーファイル」を作成することになりました。

生徒たちは早速、全校にデザインを募集し、厳選し、投票を行いました。たくさんの投票の中からよりよかった作品4点をデザインとしました。企業と何か一緒に何かできるんだ！を今年度もできたことで、来年度は何ができるのか、何かした

い！と意識が変わったこととはとても良かったと思います。



●旭区農業体験

5月から11月まで、保健委員会の代表の生徒たちが農業体験に参加しました。苗植えから始まり、つる返しや草取り、畑見学、食育講座、さつまいも収穫、料理教室と地域様々な方たちと交流を深め、たくさんのことを教えていただき、普段なかなかできない貴重な体験を通して農業について学ぶことができました。

野菜、果物一つひとつが農家さんの丁寧な作業を経て私たちの口に届いているのだなと思いました。食の原点を知り、食の大切さ、ありがたさを知りました。と生徒は無駄なくすべて食べれるものなんだということも知り、SDG s だなと気づきがありました。

3 ESDの価値を引き出すために

試行錯誤したこと

「みんなで考え、みんなで行動する」

SDG s への取組について、南希望が丘中学校が大切にしていることです

3年目になる「服のチカラプロジェクト」、2年目になる「レッドカップ」販売、コンタクトレンズケースの回収、今年度行った「文房具」の回収…これらの活動は、ただ「行う」だけでなく、ま

ずはみんなで「知る」「考える」ことから始めています。次はみんなで「行動」。SDG s 達成の担い手育成(ESD)推進校として3年目を迎えた今年度もそのような姿がたくさん見られました。

そして、今年度はその取組が、学校内、学校外へさらに「広がり」はじめた年にもなりました。

まず、生徒会の各常任委員会では、年間の活動目標をSDG s に絡めた目標にしました。「ホールスクール」へ一歩踏み出すことができたと思います。

また、生徒会本部が中学校ブロックでの横浜子ども会議で、学区2小学校へ服のチカラプロジェクトへの協力を呼び掛けたところ、2小学校の児童会も快く引き受けていただき、子ども服の回収ボックスを小学校に置くことができました。南希望が丘中学校のSDG s への取組の一つが小学校の皆さんにも、そして小学校の保護者の皆さんにも伝わったと思います。地域にも「南希望が丘中学校は、SDG s に取り組んでいる。」ということが徐々に広がり、レッドカップ販売や文房具の回収に、地域の方にも協力していただきました。

そして、ステークホルダーとの連携協働の一環として、今年度はペーパーファイルを作成しました。昨年度のエコバックと同様に、デザインは生徒の皆さんから募集。今年度も素晴らしいものことができました。

4 学校全体(ホールスクール)でESDに取り組むことによって引き出すことができた価値

SDG s への取組は、学校内だけで完結するものでなく、取組を進めていけばいくほど、学校外の人たち、つまり「社会」と繋がっていき、それによって関わる生徒たちの学びもより広く、そして深くなっていきます。そのためには、生徒たちが関わる範囲がより「広げる」必要があります。今年度の南希望が丘中学校の取組は、そのスタートの年になったと思います。

来年度は、今年度以上に様々な人たち、そして「社会」を繋がり、生徒たちの学びがより「広く」「深まる」よう、SDG s への取組を進めていきたいと考えています。